

CONTENTS

山口県施工管理のためのe-learningシステムで学習しよう

山口県の土木遺産 下関漁港閘門を訪ねて

派遣研修を終えて

新任職員 ～よろしくお～

編集後記

この情報誌は土木技術に関する様々な情報を、山口県及び市町の土木技術職員の皆様方に提供するものです。



●一般国道491号 赤滝大橋(仮称) (ケーブルエレクション直吊工法)

山口県施工管理のためのe-learningシステムで学習しよう!

建設技術センターHPにて、『山口県施工管理のためのe-learningシステム』を公開しています。このシステムは、山口県が有害なひび割れを低減するために運用している「コンクリート構造物ひび割れ抑制対策¹⁾」の中の「第4章施工の基本事項の遵守」にある、監督職員が施工状況把握の際に使用する「施工状況チェックシート」の内容を説明しています。

このシステムは時間や場所の制約を受けずに、何度でも学習が可能です。さらに、施工状況の理解度を確認する小テストもありますので、施工状況チェックシート内容及びコンクリート施工に関する理解を深めるものとしてとても役立ちます。是非アカウントを取得して学習をして下さい。

1) 山口県土木建築部技術管理課HP
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a18000/index/>

アカウント取得の流れ

(財)山口県建設技術センターホームページ <http://www.yama-ctc.or.jp/>



とじあな

とじあな

山口県の土木遺産 下関漁港^{こうもん}閘門を訪ねて

所在地：下関市

下関市は日本近代化以降、大陸への玄関口、捕鯨基地として繁栄してきた県内最大の都市であり、昔から「クジラ」や「ふく」、最近では「あんこう」などで全国的にも有名な水産都市である。

今回は、下関市の彦島と本土の間に設置されているパナマ運河と同形式の下関漁港閘門（こうもん）を紹介する。

昔、下関市には漁港がなく、漁船の接岸、水揚げのための漁港の建設が課題となっていた。1921年（大正10年）、内務省直轄下関漁港修築工事により竹崎町側の海岸を埋め立て漁港施設建設の工事が行われ、1928年（昭和3年）に岸壁、物揚場が建設されたが、下関と彦島のあいだの小瀬戸の速い潮流のため接岸が容易でなかった。

この頃、小瀬戸を埋め立て、下関と九州を関門鉄道トンネルで結ぶ計画が決定されており、この計画に併せて、1928年（昭和3年）に漁港を修築することとなった。1932年（昭和7年）に15年継続国庫補助事業として漁港修築事業に着工し、1937年（昭和12年）に小瀬戸が埋め立てられて土地の造成は完了した。

埋め立てにより小瀬戸の幅が大きく狭められ、響灘と瀬戸内海の干満の潮位差（最大1.2m）による潮流が速くなり、小型船舶の航行が困難となった。そのため、潮流を調整し小型船舶の安全な航行をはかるため、1938年（昭和13年）、閘門が建設された。これにより、船舶の安全な航行とともに彦島と下関が徒歩で行き来できるようになった。

閘門とは、閘門の前後で水位が違う場合に、

①閘室（前後を仕切った空間）の前方（後方）の門扉を開けて船舶を閘室に入れる

②門扉を閉じる

③後方（前方）の水位まで閘室の水位を上下させる

④後方（前方）の門扉を開けて船舶を航行させる

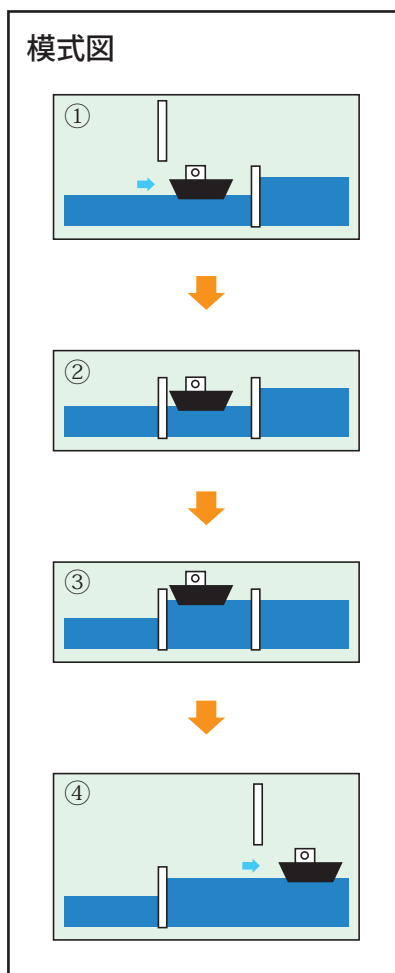
ものであり、水位の異なる場合に船舶を垂直移動させることにより運行を可能たらしめる土木構造物である。

1938年（昭和13年）に築造された閘門は引き戸方式であ



ったため、両門扉を同時に開放して水を入れ換えることができず、漁港内の水質が極度に悪化した。そのため、1961年（昭和36年）に両扉を同時に開けられる巻揚式に改良され、1986年（昭和61年）に現在の姿に改築された。

模式図



1982年（昭和57年）に閘門上に市道橋（可動橋）が架設され、車両通行も可能となった。しかし、車両通行時には、閘門が使用不可能となり船舶の航行ができないことから、船舶通行と車両通行の時間帯を区切って使用されている。船舶通行と車両通行の切り替えは、閘門横の監視所で手動で行われており、閘門と可動橋の操作者は「四方八方に目を配り、事故が無いよう施設の操作を行っている」と苦労話をされていた。

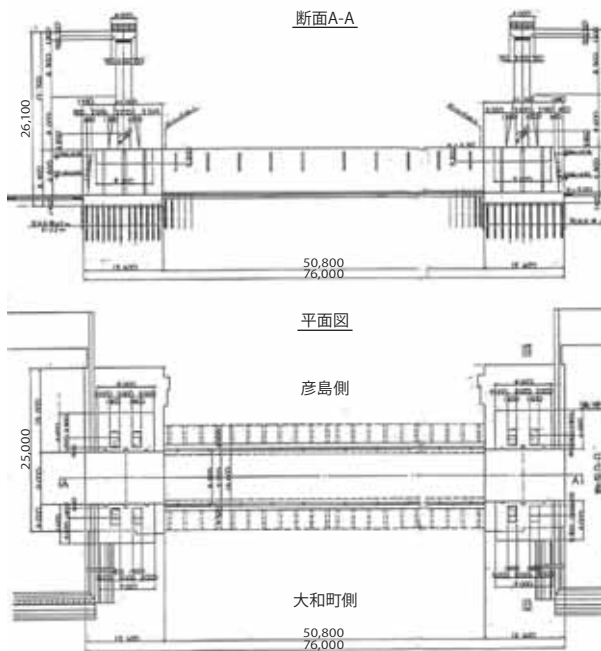
閘門は、平成18年に水産庁の「未来に

残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に選ばれている。(参考文献:「下関漁港パンフレット」、「水門橋パンフレット」、「下関漁港閘門改良について」 写真提供:下関市港湾局、山口県下関水産振興局)



昭和13年

閘門一般図 S=1:200



現在



派遣研修を終えて

北村 浩 (下松市)

下松市から、(財)山口県建設技術センターへの派遣研修をうけ、平成20年度と21年度の2年間で勤務しました。

センターでは、技術部技術課に配属され、積算・調査設計管理・設計チェック・コンクリートに関する業務や三者会議等の多種多様な業務に携わらせていただきました。

積算については、大規模な橋梁や仮設構造物、船舶を使用する工事、下水道、水門等の機械設備、ダム等の改造、災害査定設計書等、過去に経験したことの無い規模、金額で毎回圧倒されたことを思い出します。

また、設計思想や施工計画の把握、歩掛や単価の根拠となる資料作りなどに時間がかかりました。そのさい、職員同士で相談し合いずいぶん助けていただきました。その他、センターで受託している様々な分野の業務に参加することにより、技術力の向上、問題解決のプロセスや合理的な資料作りまで学ぶことができました。

また、この間に多くの専門研修に参加させていただきました。(全国建設研修センター・下水道事業団・橋梁点検や各種技術講習会・センター主催研修等)

技術の習得はもちろん、自分自身の意識の向上を図る上

で大変有意義なものとなりました。

この2年間、多くの貴重な体験をさせていただきました。県下で行われている建設事業の現状を、把握できたことやそれに携わる多くの職員の方と知り合えたことは今後の財産となりました。

また、発注者としてではなく支援業務としての立場で、公共事業に携わることで、今後の発注機関としての役割やあり方について、自分なりに整理することができました。今後は、センターで得た知識や経験を、市の建設行政に活かして参りたいと思います。

最後に、指導して頂いた建設技術センター並びに関係機関のみなさまに、厚くお礼を申し上げます。このような機会を与えて下さいました、下松市に深く感謝しております。ありがとうございました。



派遣研修を終えて

津田 晃 (萩市)

2年前、「今日の昼までに回答しないといけないから、2年間頑張ってきてくれ」と突然辞令を言い渡された私は「行きたくありません」と返答した記憶があります。結局、断り切れずに始まったセンターへの派遣でしたが、2年間を振り返ってみると、「こんなに色々な事が学べるチャンスを棒に振ってしまったのか・・・」と後悔するところだったと思います。

センターに来る前の私は下水道建設課の職員であったため、センターでは下水道の仕事を主に2年間を過ごすものだと思っていました。しかし現実とは全く違い、経験のない積算ばかりでとても苦勞しましたが、周りの方々から多くの助言を頂き2年間をどうにか乗り越えて来ました。その中で気付かされたことは、当たり前のことなのですが「積算」よりも「設計」が一番大切だということです。

ここに来る前の私は「コンサルタントからの成果品は正しいものなので、事業を進めながら段階ごとに内容を確認して行こう」と「設計の確認」を後回しにして仕事をしていました。しかし、重要なのは「設計時に問題を解決しておく」ことであるということです。

今の時代、業務が多忙で成果品の内容をこと細かに確認することは非常に難しいと思いますが、事業を進める中で何を押さえておく必要があるのか、何を現場で柔軟に対応すべきかを事前に理解しておけば、もし問題が起きてもそれはすでに解決しており、事業の進捗には影響が出ない

と思われます。

しかし、担当が変わればその解決策はなかなか次の担当には伝わらないと思います。二度手間にならないためにも、1ペーパーの簡単なものでいいので、自分の考えた解決策をまとめて成果品に付けておこうと思っています。

派遣前の私は知識が少なく、コンサルタントの説明が全て正しいものに聞こえていました。しかし、今後は自分で感じた「なぜ?」という疑問を「なんとなくそんな感じ」で終わらせず、「説明できるように理解する」ようにして行こうと思います。そのためにはより多くの知識を得る必要があるため、今後もなるべく多くの研修に自発的に参加して、それでも理解できない時にはセンターで培った「人脈」をフルに活用していきたいと企んでおります。(今後も引き続きよろしくお祈りしますv ^ o ^ v)

終わりに2年もの間センターで業務を行えたのは、お世話になった皆様がたのおかげだと感謝しております。今後ともご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願い致します。



としあな

新任職員 ~よろしくお祈りします~



業務部
福富 部長
工事等で疑問が出た場合はお気軽にお立ち寄り下さい。きっとお役に立てると思います。よろしくお祈りします。



総務課
下瀬 課長
皆様のお役に立てる建設技術センターを目指して頑張っております。



研修課
城一 課長
少しでも、皆様の業務に役立てるような研修を目指して頑張っております。よろしくお祈りします。



技術課
伊藤 主任技師
できるだけ早く業務に慣れて、皆様のお役に立てるように頑張りたいと思います。よろしくお祈りいたします。



技術課
小田村 主任技師
これまでの経験を生かし、皆様の業務が効率的に執行できるように頑張りたいと考えていますので、どうぞよろしくお祈りいたします。



工事管理部
岡本 工事管理監
今までの経験を生かし、皆様のお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお祈りいたします。



工事管理部
重本 工事管理監
初めての建設技術センター勤務で戸惑いもありますが、これまでの経験を生かし、皆様のお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお祈りいたします。



工事管理部
田中 工事管理監
皆様のお役に立てるよう努めて参ります。よろしくお祈りいたします。

編集 後記

平成22年度になり1カ月以上経ちました。建設技術センターでは今年度8名の新メンバーを迎え、新体制で皆様のサポートを行っております。気軽にご相談いただけたらと思います。4月から5月にかけて、山々の木々が新緑に染まります。桜の花もきれいです。この新緑というものにも格別の美しさがあり、山口県はどこにいても山を見ることが出来る非常に恵まれた環境だなと感じます。

【Eメールアドレス】 info@yama-ctc.or.jp
【ホームページアドレス】 <http://www.yama-ctc.or.jp>

〒753-0073 山口県春日町8-3春日山庁舎
(財)山口県建設技術センター 情報誌編集委員会 宛
【TEL】083-920-1233 【FAX】083-920-1288

としあな